



ちばりは ニュース

千葉県千葉リハビリテーションセンターの理念と基本方針

理念

「誰もが街で暮らすために」

Everybody will be in own town

・私たちは障害児・者の自立と社会参加に向けて良質な医療と福祉を提供します・

基本方針

利用者の意思と個性を尊重し、専門職の協働による包括的リハビリテーションを実践します。

日々の研鑽により自らの人間性と専門性の向上を図り、安全で質の高いサービスを約束します。

地域の各機関との連携を図り支援し、また研究・開発や専門職育成に努めます。

2019年11月発行 第38号
千葉県千葉リハビリテーションセンター 広報誌



〒266-0005
千葉市緑区誉田町1-45-2
TEL 043-291-1831 FAX 043-291-1857
ホームページアドレス
<http://www.chiba-reha.jp/>

リハ療法士は様々な活動をしています

リハビリテーション療法部には、理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・言語聴覚士（ST）・心理師・視能訓練士の5職種、総勢115名の療法士が所属しています。私たちが提供しているリハビリテーション（以下、「リハ」という。）には、1対1で行う個別リハと利用者・家族等のグループを対象とした集団リハがあります。また、リハの提供以外にも、センター内の他部署と連携した多職種での活動も行っています。今号では、これらのうちの「集団リハ」と「多職種での活動」をご紹介します。

1) 利用者・家族対象の集団プログラム

入院のプログラム

朝活
病棟レク
元気アップリハ
離床プログラム
ピアサポート
患者・家族向け勉強会
運転講座

入院・外来共通のプログラム

高次脳グループ訓練
【PT・OT・ST・心理】
リハビリテーションスポーツ
高次脳家族講座

外来のプログラム

チャレンジクラブ
小児高次脳グループ
家族で学んで遊んでみよう会
家族グループ

集団リハは、プログラム本来の目的に加え、意欲や自発性がより高まるなど、参加者間の交流が織りなす相乗効果が期待できます。また、多職種での協働を通して私たちリハ療法士も他の職種の着眼点を知り、利用者を多面的に理解し、その人に相応しい関わり方を学ぶことができます。集団リハプログラムの主なものを下記にご紹介します。

病棟レク

病棟で週1回実施している集団レクリエーションです。

毎回10人程度で、体を動かすゲームや小物作り、季節の行事、料理レクを皆で楽しく行っています。

入院生活では、気持ちが塞ぎ込んだり、周囲の人と関わる機会が少なかったりすることがあります。

病棟レクは意欲や自発性などの精神活動を活性化することや患者さん間の交流の機会作りになります。個別のリハビリ場面ではあまり見られない笑顔が見られることも多くあります。出来上がった作品をご家族にプレゼントする方もいらっしゃいます。



ピアサポート

全国脊髄損傷者連合会千葉県支部の当事者・家族の皆さんと協働し、病棟で月1行っている、情報提供と交流の場です。



2面につづく

利用者・家族向け勉強会

退院後に主体的な健康管理が行えるように、病棟（回復期）の患者様・ご家族様に向けて毎月勉強会を開催しています。

「運動習慣・自主練習について」「日々の食事」「薬について」「生活リズム」など様々なテーマの勉強会を多職種で連携しながら開催しています。

患者様それぞれが勉強会を通して主体的に考えられるように部分的にワークショップ形式も取り入れて行っています。



チャレンジクラブ

地域で生活する障害のある中高生を対象に、休日・夏休み等を利用し集団で行うプログラムです。ご自身の障害への理解を深め将来の社会参加や自立に向けて、メンバー間で相談し様々なことに楽しみながらチャレンジすることを目的としています。



カレーづくり
公共交通機関
でお出かけ！

グループ訓練（心理）

高次脳機能障害の基本的な知識を学び、ご自身の症状についての理解を深めることを目的として、週1回グループ訓練を実施しています。

参加メンバー全員で、作業課題にチャレンジしたり、症状の対処法について、話し合ったりしています。

PT、OT、STでも、それぞれ高次脳グループ訓練を実施しています。



元気アップリハ

主に人工関節の手術を受けられる患者様を対象に、自主的な運動機会を作り、ご自身の体力の維持向上を図る目的で、週2回、PT・OTが、自主トレーニングを支援するグループを行っています。毎回10名程度の利用者が参加され、一人ひとりの状態に合わせて行っています。

お互いに声を掛け合い励まし合いながら頑張っている姿が印象的です。



2) 地域の支援者を対象とした活動

千葉リハでは、当センターの専門性を活かし、地域の支援者を対象とした研修会等を開催しています。これら多職種協働の企画にリハ療法士も参加しています。併せて、外部の機関・団体からの要請を受け、講師としてリハ療法士の派遣なども行っています。今回は、センターが開催する研修会等の中から下記に3つをご紹介します。

脊損リハケア講習会

県内の病院等から医師、看護師、リハ職、SW、薬剤師等74名が参加され、当センターにおける脊髄損傷のリハビリテーションをご紹介します。近年、高齢者の軽微な外傷での頸髄不全損傷が増えており、関心の高さがうかがえました。

その他の成人分野の研修会
「生活版ジョブコーチ研修会」「就労支援研修会」「高次脳機能障害と運転勉強会」など

千葉県こどものリハビリ多職種勉強会

県内全域の、職種の垣根を越えた関係性の構築を目指して、リハビリスタッフも含めた多職種による勉強会を、初めて開催しました。日本の脳性まひ診療をリードする、ボバース記念病院の荒井洋先生にもご講演いただきました。



小児高次脳機能障害支援者向け研修会

医療・教育・福祉などの支援者を対象に、当センターで蓄積してきた高次脳機能障害の子どもたちへの支援のノウハウを伝達しています。昨年度は全国各地から約70名が参加され、大変盛況でした。

その他の小児分野の研修会
「療育支援研修会」「特別支援学校教員研修会」「成人期施設職員研修会」など

台風15号被災地に支援チームを派遣しました

9月9日(月)に非常に大型な台風15号が千葉県に上陸し、千葉県全域に甚大な被害が生じました。この「令和元年台風第15号」の被災地支援のために、千葉県からの要請を受けて、災害リハビリテーション組織である千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会(C-RAT、千葉JRAT)が、活動しました。当センターは千葉JRATの本部として活動した他、現地支援活動として3チーム8名を安房地域に派遣しました。

1. 千葉JRATの活動概要

9/9 ~ 9/10

- ・台風15号が千葉県に上陸
- ・県災害対策本部が設置される。
- ・リエゾン(連絡員)を県庁へ派遣

9/13

- ・千葉JRAT本部立ち上げ
- ・千葉JRAT構成団体への協力要請開始

9/15

- ・現地派遣を行うためチーム派遣依頼
- ・派遣に係る調整を実施

9/16

- ・千葉県より協定に基づく千葉JRAT派遣要請

9/16

- ・千葉JRATが16日~23日の8日間現地支援に当たる。千葉リハから3チーム8名派遣

9/24

- ・安房地域のリハ資源へ活動の引き継ぎをして、千葉JRATの活動終了。

2. 千葉JRAT本部としての活動

千葉リハでは現地支援活動のほか、千葉JRATの本部としての活動も行いました。主な内容としては、情報収集、構成団体への協力依頼・情報共有、チーム派遣調整、会議に参加し他団体と情報共有を図るなど多岐にわたるものでした。



千葉JRATロジスティクス(業務調整員)担当としてミーティングに参加する千葉リハ職員

3. 現地支援チームとしての活動

現地に派遣された職員は、各地の避難所を巡回し、リハビリニーズのヒアリングや避難所状況の確認、ダンボールベッドを設置するなどの環境整備、生活不活発病(エコノミークラス症候群)予防の啓発、高齢者・障害者の戸別訪問を実施しました。その際、他団体と支援活動内容や避難所情報(避難者の様子、トイレなどの衛生環境、物資の偏りなど)を共有しながら支援活動を行いました。



ヒアリング



段ボールベッド設置



ミーティング



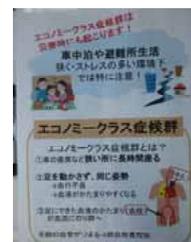
物資積み込み



布団が余っていて外に積んである避難所



避難所だが布団が一枚もない



配布したチラシ

**第15回高次脳機能障害リハビリテーション
千葉懇話会（ご報告）**

9月28日（土）、千葉市民会館にて第15回高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会を開催いたしました。

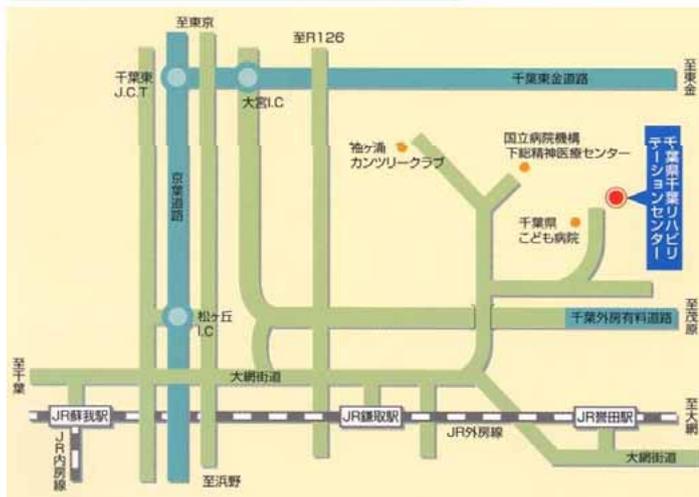
今回は、京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座（精神医学）教授であられる村井俊哉先生から、「高次脳機能障害の臨床：社会的行動障害を中心に」のテーマで講演して頂きました。社会的行動障害が中心ではありませんでしたが、障害の定義からはじまり臨床にいたるまで分かりやすく説明いただきました。

当日は、他県からの参加者も含め155名と多くの方にご参加いただき、アンケートの回答率も9割を越え大盛況となりました。



講演の様子

センター案内図



**第17回脊髄損傷リハビリテーション
講習会（ご報告）**

11月9日（土）、一般社団法人日本損害保険協会から助成を受け、第17回脊髄損傷リハビリテーション講習会を開催し、93名の方にご参加いただきました。

今回のテーマは「就労」です。講演では社会福祉法人浴風会第二南陽園園長の石渡博幸様に「脊髄損傷者の就労の実際」をテーマに、国立施設での支援の経験や就労支援の現状についてご講演いただきました。

シンポジウムでは「私の働き方」をテーマに脊髄損傷当事者の宇笠雄太様と江口雄司様に現在のお仕事の内容や働き方の工夫、働くための生活の工夫などについてトークショー形式でお話をいただきました。

最後に行われた情報交換の場では、シンポジストのお二人に加え、全国脊髄損傷者連合会千葉県支部の露崎耕平様にご協力いただき、参加者からより近い場で情報交換・質疑ができる時間を設けました。脊髄損傷者が「働くこと」に限らず、日常生活や趣味のことなど多くの質疑・情報交換がされる貴重な機会となりました。



講演

シンポジウム

車のご利用

- ・千葉東金道路 大宮インターから約10分
- ・京葉道路 松ヶ丘インターから約25分

電車・路線バスのご利用

- ・JR外房線鎌取駅北口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約9分
- ・JR千葉駅東口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約40分（土曜・休日のみ）

無料送迎バスのご案内

平成26年8月1日改定

（センター JR 鎌取駅 循環運行）

JR 鎌取駅北口発 千葉リハビリテーションセンター行き

千葉リハビリテーションセンター発 JR 鎌取駅北口行き

時	平日	土曜日
8	10 30 50	10 30 50
9	10 30 50	10 30
10	10 30 50	20 40
11	10 30 50	00 20 40
12	10 30 50	40
13	10 30 50	
14	10 30 50	
15	10 30 50	
16	10 30 50	
17	10 40	

時	平日	土曜日
8	03 23 43	03 23 43
9	03 23 43	03 23
10	03 23 43	13 33 53
11	03 23 43	13 33
12	03 23 43	33
13	03 23 43	
14	03 23 43	
15	03 23 43	
16	03 23 43	
17	03 33	

センター送迎バス発着場所について
鎌取駅発・・・鎌取駅北口ロータリー付近
（専用のバス停はございません）
センター発・・・センター正面玄関前
車椅子ご利用の乗車定員について
中型バス（黄色）・・・2名
マイクロバス（水色）・・・3名
日曜・休日は運休となります。
道路混雑等により遅延する場合があります。